

授業科目 (ナンバリング)		生物薬剤 (事前学習) (NF415) (実践的教育科目)		担当教員	早川 正信*・室 高広*・大磯 茂*・神田 紘介*・ 末廣 真理恵*・中島 健輔*・大久保 伸哉*・ 中村 沙織 (*実務経験のある教員)		
展開方法	講義・演習・実習	単位数	3 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>本学薬学部薬学科のディプロマポリシーである、薬の専門家として高度化・複雑化する社会の医療ニーズに対応するために必要な知識、医療や薬学に関する諸問題について、有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる技能、薬の専門家として十分なコミュニケーション能力、個々の患者や医師・看護師等に薬の情報を的確に提供することができる能力、を備えることを目標とする。</p> <p>特に、卒業後、医療、健康保険事業に参画できるようになるために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で薬物投与計画、服薬指導、フィジカルアセスメントなどの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得することを目標とする。</p>							①②④⑥⑦⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				随時試験 (実技) (筆記)	50% 10%	
情報収集、分析力	患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。)基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。				随時試験 (レポート)	20%	
コミュニケーション力	患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤の取扱い方法を説明できる。				随時試験(実技)	10%	
協働・課題解決力	代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				随時試験(実技)	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
随時試験結果を100%とし、実技試験・筆記試験・レポートで評価を行う。							
授業の概要							
病院・薬局の勤務経験がある教員が、実務経験で得られた知見や事例等を取り入れ、実習を展開する。教科書、実習書を主体とし、これに参考書や配布資料等を補助的教材として用いて講義、実習を行う。講義、実習(模擬患者とのロールプレイおよびおシミュレーターを使った実習)、グループ討議(SGD:模擬処方せんによる処方設計)を行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7臨床薬学Ⅲ チーム医療および地域の保健・医療・福祉への参画(東京化学同人) 治療薬マニュアル(医学書院) 参考書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤(東京化学同人) 指定図書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践(東京化学同人)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>薬局・病院実務実習に先立って、大学内で薬物投与計画、服薬指導、フィジカルアセスメントなどの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得するための事前学習のひとつの科目です。実務実習のことも想定して取り組んでください。講義と実習は連動しているので実習はもとより講義を欠席しないようにしてください。配布されたプリント及び参考書等を利用して予習・復習をしっかりとるようにして下さい。講義中および講義後の質問は大いに歓迎します。※質問は、基本的に在室中は可能ですので、担当教員のオフィスを訪ねて下さい。</p> <p>(薬学研究棟 P311:早川、P302:室、P312:神田)</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標 番号*
1	処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案):薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決	薬物療法の有効性、アドヒアランス不良や肝・腎機能低下時の投与量などの基本的な安全性の問題点を識別し、現状評価を行い、必要な処方設計を行う。インフルエンザ(薬物療法の評価:肝・腎疾患時の処方提案、アドヒアランス不良時の対処方法提案、栄養(輸液栄養療法、電解質:嘔吐・下痢に対する輸液などの処方提案)。(担当教員)	教科書・実習書・配布資料 確認	755, 757, 809-814, 999
2	処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案):薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決	薬物療法の有効性、アドヒアランス不良や肝・腎機能低下時の投与量などの基本的な安全性の問題点を識別し、現状評価を行い、必要な処方設計を行う。糖尿病(薬物療法の評価:肝・腎疾患時の処方提案、アドヒアランス不良時の対処方法提案、栄養(輸液栄養療法、電解質:嘔吐・下痢に対する輸液など)の処方提案)。(担当教員)	教科書・実習書・配布資料 確認	755, 757, 809-814, 999
3	処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案):薬物療法の効果と副作用モニタリング	代表的な疾患を有する患者の薬物療法の有効性、安全性を評価する指標を適切に指摘する。患者の状態をモニタリングするためのツールとして、臨床検査値の継続的な確認をする。アナフィラキシーショック(薬物療法の評価)シミュレーター使用。(担当教員)	教科書・実習書・配布資料 確認	756, 1013, 1014, 1015
4	患者・来局者対応、服薬指導、患者教育	患者から薬物治療に係る基本的な情報(症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等)を収集する。医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を種々のツールを用いて患者に提供する。指導、教育内容を適切に記録する。模擬患者(SP)疾患:気管支喘息:面談(聴き取り、情報提供)特に高齢者・妊婦・授乳婦(ステロイド、β刺激薬等)との面談。(担当教員)	教科書・実習書・配布資料 確認	944, 946
5	患者・来局者対応、服薬指導、患者教育	患者から薬物治療に係る基本的な情報(症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等)を収集する。医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を種々のツールを用いて患者に提供する。指導、教育内容を適切に記録する。模擬患者(SP)疾患:気管支喘息:生活指導(ステロイド使用中)(担当教員)	教科書・実習書・配布資料 確認	947
6	患者・来局者対応、服薬指導、患者教育	患者から薬物治療に係る基本的な情報(症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等)を収集する。医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を種々のツールを用いて患者に提供する。指導、教育内容を適切に記録する。模擬患者(SP)疾患:気管支喘息:吸入器具使用方法説明・眼軟膏(担当教員)	教科書・実習書・配布資料 確認	949
7	患者・来局者対応、服薬指導、患者教育	患者から薬物治療に係る基本的な情報(症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等)を収集する。医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を種々のツールを用いて患者に提供する。指導、教育内容を適切に記録する。模擬患者(SP)疾患:気管支喘息:模擬診療録に記録(担当教員)	教科書・実習書・配布資料 確認	950, 951
8	患者情報の把握	患者情報の各種媒体(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、検査記録、お薬手帳など)から薬物治療に必要な情報を収集し、評価する。シミュレーターを利用したフィジカルアセスメント及び身体所見の観察・測定・評価(担当教員・外部講師)	教科書・実習書・配布資料 確認	988, 989
9	在宅医療の把握	在宅医療について把握し、地域での保健・医療・福祉について理解を深める。在宅医療・介護にかかわる薬剤師の管理業務について理解を深める。(担当教員)	教科書・実習書・配布資料 確認	1039, 1040, 1041
10	プライマリケア、セルフメディケーション	模擬来局者の状態の把握と評価を行い、ニーズにあった適切な対応を行う。血圧測定、血糖値測定等の簡易検査の手法を理解し、得られた情報の評価を行う。代表的な生活習慣の改善についてのアドバイスをを行う。模擬生活者・模擬来局者(SC)参加の医療面談(担当教員)	教科書・実習書・配布資料 確認	1049, 1050, 1051, 1052
11	随時試験	筆記試験と実技試験		

注) 上記の第1回～第11回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

* 到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。

実習サポート助手: 高島 啓吾